

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

水戸赤十字病院 広報誌

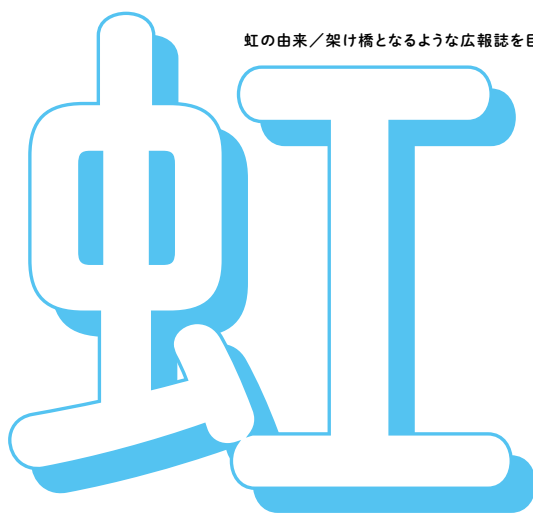
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3-12-48

TEL.029-221-5177(代表)

<http://www.mito.jrc.or.jp>

2025.7
Vol. 54
【隔月刊】

虹の由来／架け橋となるような広報誌を目指します



令和7年4月1日、
当院に約60名の職員が入職しました。
新入職員たちは新たな環境で、
患者さまのために日々奮闘しています。

水戸赤十字病院の創立100周年を記念し植樹した
ヒポクラテスの樹とともに。



P2:泌尿器科紹介 P3:形成外科紹介 P4:妊婦・授乳婦さんへの当院薬剤師の関わり、未来を担う看護学生の実習受入れ P5:地域とともに歩む当院のSDGsへの取組、災害拠点病院としての取組、職員の育てた花が病院の彩りに P6:登録医紹介 P8:院長コラム、創立100周年特別記念座談会の記事広告が第32回茨城新聞広告賞優秀賞を受賞!



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

水戸赤十字病院

当院の情報は
こちらから!



HP



Instagram



Facebook

泌尿器科

当院は泌尿器科に関わる全般的な疾患に対応しております。

患者さまのニーズにお応えできるよう、一人ひとりのお話を丁寧に伺い、ご理解・ご満足いただけるよう対応しております。

1.当院の泌尿器科医

◆野澤 英雄 院長

専門：尿路性器腫瘍学、男性不妊症、性機能障害

【認定資格】日本専門医機構認定泌尿器科専門医、日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医／ロボット支援手術認定プロクター（前立腺・膀胱）（副腎・腎（尿管））、日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本性機能学会専門医、日本東洋医学会認定医

◆露崎 康一 第二泌尿器科部長

専門：泌尿器科一般

【認定資格】日本専門医機構認定泌尿器科専門医、日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ロボット支援手術認定プロクター（前立腺・膀胱）

このほか常勤医師の鈴木 雄大医師、萩谷 圭一郎医師、西本 悠樹医師、東邦大学から非常勤医師の大川 瑞穂医師、嶋田 瑛治医師、萩原 琢也医師、漆原 爽稀医師、小澤 遼久医師が担当しております。

2.泌尿器科について(得意な疾患・治療法・術式)

前立腺癌、尿路上皮癌(膀胱癌・腎盂尿管癌)、腎細胞癌に関しましては手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた低侵襲でより安全性の高い腹腔鏡手術を行っています。

【前立腺癌】

- ・手術：ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(RARP)
2013年より手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、2025年5月現在、累計症例700件を超えました。
- ・放射線治療：高度変調放射線治療(IMRT)
2024年に新たな放射線治療機器を備えたりニアック棟を開設し、負担の少ない高度変調放射線治療(IMRT)を行っています。
IMRTに先立ち放射線性直腸炎を予防するために、前立腺と直腸の間に「スパーサー留置術および前立腺に目印をつける金マーカ―留置術」をほぼ全例に施行しております。

【前立腺肥大症】

- ・経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP ホーレップ)
 - ・経尿道的な前立腺水蒸気治療(Rezūm™ レジューム)
 - ・経尿道的な前立腺吊り上げ術(UroLift® ウロリフト)
- 前立腺肥大症に対してはHoLEPを標準術式としております。本術式は大きな前立腺に対しても手術可能なため、自院で実施困難な近隣施設から多くの症例をご紹介いただいております。また、様々な理由で尿道カテーテル抜去困難な高齢男性に対しては、全身麻酔または腰椎麻酔にて10-30分程度で治療可能な手術(Rezūm™、UroLift®)を行っています。

【尿路上皮癌(膀胱癌・腎盂尿管癌)】

- ・ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術(RARC)
- ・ロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除術(RANU)

【腎細胞癌】

- ・ロボット支援腹腔鏡下腎摘除術(RARN)
- ・ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(RAPN)

経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)



尿道内腔からレーザーを用いて前立腺を「核出」します



経尿道的な水蒸気治療(Rezūm™)の治療イメージ



経尿道的な前立腺吊り上げ術(UroLift®)の治療イメージ

【尿路結石】

- 自然排石が難しい症例に関しましては手術(ESWL、TUL、PNL)を行い、結石治療を総合的に行っております。
- ・体外衝撃波結石破碎術(ESWL)
 - ・経尿道的な尿管碎石術(TUL)
 - ・経皮的な腎・尿管碎石術(PNL)

泌尿器科

詳細はホームページをご確認ください。
こちらのQRコードから閲覧いただけます。



3.診療科からのメッセージ

患者
さまへ

検診PSA高値、頻尿、排尿障害、肉眼的血尿、突然の腰部痛の症状でお困りの方はぜひご相談ください。当院で対応できない事例が生じた場合でも適切な医療機関への紹介を行っておりますのでご安心ください。

各医療
施設の
皆さまへ

特に前立腺癌(PSA高値)、前立腺肥大症(尿閉、排尿障害)でお困りの方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

形成外科

最近では形成外科を掲げる病院も増えてきていますが、実際のところ「形成外科でどういう疾患を扱っているのかよくわからない」という方が多いと思います。今回は形成外科の紹介と、当院でよく扱う疾患の紹介をします。

1. 当院の形成外科医

◆馬本 直樹 形成外科部長
専門：形成外科一般

このほか非常勤医師の中山 凱夫医師（筑波大学名誉教授）、井口 聖一医師（いぐち皮フ科形成外科クリニック 院長）、藤田 悠気医師（城本クリニック柏 院長）が担当しております。

◆金崎 茉耶 医師
専門：形成外科一般、マイクロサージャリー、手外科診療

【認定資格】日本専門医機構認定形成外科専門医

2. 形成外科について（得意な疾患・治療法）

形成外科は、体の表面の病気やけがを扱います。大きく分けて以下の3つの分野があります。

【形成外科】顔面や手先足先のけが、やけどやきずあと、あざ、体の表面のしこり

【再建外科】組織欠損（がんや生まれつきの障害で体の一部が失われている場合）

【美容外科】しわ・たるみ、しみ、まぶたの下垂など

当院はいずれの分野も対応しています。（ちなみによく間違われる整形外科は、腕や脚・首や腰などの骨や筋肉、神経を扱います。）

当科は1994年、開設当時からあざやしみのレーザー治療を行っています。

パルス色素レーザー（赤あざ用）、ルビーレーザー（青・茶あざ用）、炭酸ガスレーザー（いぼ用）の3台を使い分けています。

基本は保険診療ですが、自費になる場合もあります。

対象疾患 青あざ（太田母斑、もうこ斑）、赤あざ（血管腫）
茶あざ（扁平母斑、老人性しみ）、ほくろ、いぼ

また、近隣の小児科と連携し、乳児血管腫（いちご状血管腫）の薬物内服治療を積極的に行っています。生後早期からの治療が必要なため、地域の先生方のご協力のもと、症例を増やしています。そのほか、上で紹介した形成外科一般の疾患も扱っています。

老人性色素斑：ルビーレーザー照射



照射後6ヶ月

単純性血管腫：パルス色素レーザー照射



照射後8ヶ月

広範囲色素性母斑：腫瘍切除と皮弁形成



皮弁埋め込み



皮弁切り離し

まぶたが下がってものが見えにくい ⇨ 加齢性眼瞼下垂症？

年を重ねるとよく見られる現象ですが、がんばって眼を開けようとすると、額の筋肉が過剰に働いて首や肩の筋肉にも負担がかかります。また、まぶたが下がる内科的な病気が隠れていることもあります。内科の先生と連携して隠れた病気の有無をチェックし、問題がない場合は加齢性の眼瞼下垂症と判断し手術を行います。局部麻酔の日帰り手術で、かかる時間は30分から1時間です。手術直後から眼が開けやすくなったことが実感できると思います。通院も週に1回程度です。該当する症状をお持ちの方は受診を検討してみてください。

形成外科

詳細はホームページをご確認ください。多数の症例写真を掲載しております。



3. 診療科からのメッセージ

患者
さまへ

皆さまの日常の不便を、手術などで解決できればと考えながら診療しています。患者さまからの「日赤の形成外科にかかってよかった」という笑顔を励みにしています。気になることがあればぜひ気軽にご相談ください。

妊婦・授乳婦さんへの当院薬剤師の関わり



「妊娠中にくすりを飲んでも大丈夫なのかな？」
「くすりを飲んだ時でも授乳できるのかな？」

妊娠・授乳期間にふとこのような疑問を持つことはないでしょうか。

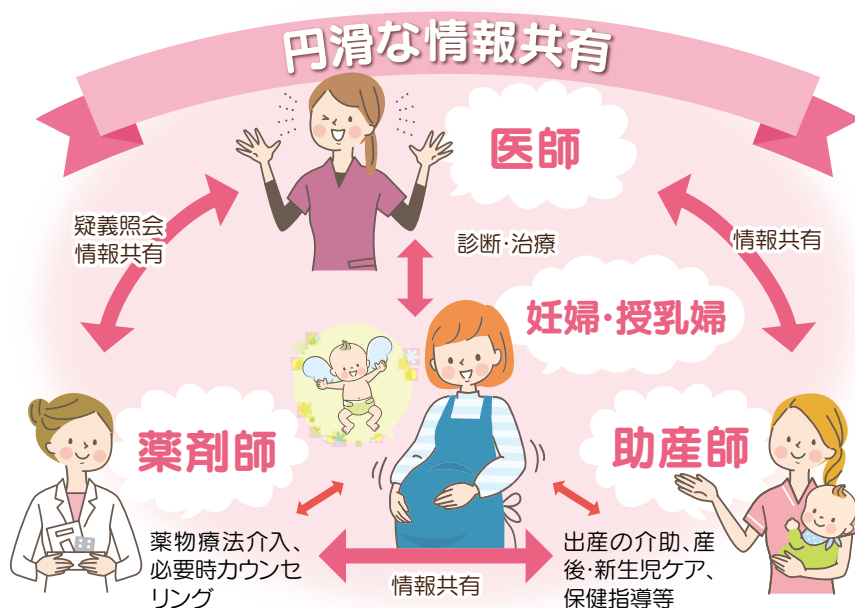
また、医師であれば患者さまが妊婦・授乳婦で添付文書上有益性投与であった時、処方するくすりに迷うことはないでしょうか。

当院薬剤部には、妊娠・授乳期における薬物療法について学んだ「妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師」が在籍しております。認定薬剤師は、妊娠・授乳期の母体の変化と胎児への有害作用を考慮した薬物療法や、母子の健康に貢献するため、産科、その他関連診療科各科の

医師・助産師・スタッフと連携し、妊娠・授乳期の患者個人にあった薬物療法の提案・情報提供等を行います。また当院薬剤部では、『妊娠とくすり』『授乳とくすり』データベースを作り、院内で情報共有しております。

当院におかかの際、妊婦・授乳婦とくすりについてお困り事がございましたら、お気軽にご相談ください。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 相差 範子



未来を担う看護学生の実習受入れ

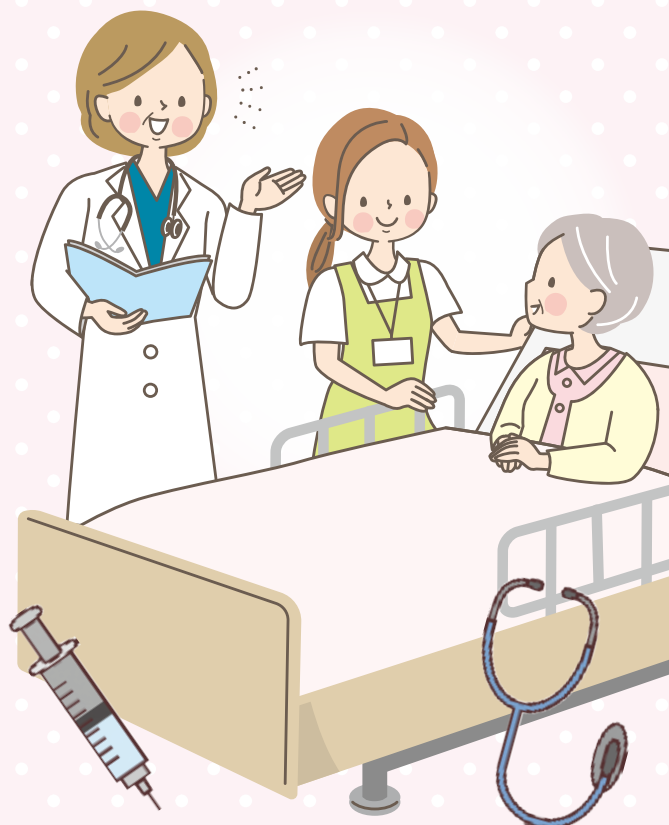
水戸日赤は、看護学生の実習受入れに力を入れています

当院では、地域医療の未来を担う看護学生の育成に積極的に取り組んでおり、実習病院として茨城キリスト教大学や水戸医師会看護専門学院、北西看護介護専門学校、県立中央看護専門学校、マロニエ医療福祉専門学校などの看護学生を受け入れています。

看護学校や学生の年次によって学生の学びや実習目的も異なるため、実習前に教員や実習指導者で打ち合わせを行い、学生のカリキュラムや特性に合わせた実習指導を行っています。

病棟での実習は「臨地実習」と呼ばれ、学生はチーム医療の一員として日々の患者さまと関わりながら、実践的な看護技術と知識の習得を目指しています。また実習を通してさまざまな患者さまやそのご家族、医療スタッフと触れ合い、コミュニケーション能力などを育む機会となっています。

今後も私たちは、学生が安心・安全に学べる環境づくりと、患者さまにより良い医療を提供できるように努めてまいります。



地域とともに歩む当院のSDGsへの取組

～持続可能な未来と、安心の医療体制づくり～

当院では、医療廃棄物の削減を目的に、使用した単回使用医療機器（一回限り使用できることとされている医療機器）を専門業者に収集してもらう取組を行っています。

収集された機器は、専門業者による分解・洗浄・滅菌・再組み立てを行うことで、新品と同等の品質、有効性および安全性を持った単回使用医療機器として再流通します。現在、再製造された単回使用医療機器は主に海外で使用されていますが、2019年から厚生労働省の承認により、日本でも使用可能なものが増えてきています。今後は国内でもこの取組が拡大していくと考えられます。

また当院は、SDGs社会の実現やGXの推進等を目的にHOYA株式会社アイケアカンパニーが取り組む環境保護活動「アイシティブコプロジェクト」に賛同し、5月26日（月）から3号館1階眼科外来前に回収ボックスを設置いたしました。回収された使い捨てコンタクトレンズの空ケースはプラスチック資源として再生利用され、環境負荷の軽減につながっていきます。患者さまも一緒に取り組めるSDGsの一歩として、今後も活動を広げてまいります。



災害拠点病院としての取組

～いざという時も、地域の安心を支えます～

当院は災害拠点病院（大規模災害時において被災地内での迅速な医療活動の拠点になるもの）に指定されており、病院機能を維持するために必要なすべての施設が耐震構造となっています。また、ヘリポートや、災害用医薬品・食糧・その他応急用資材を保管するための備蓄倉庫を整備しています。

また、発電機本体や関連設備の改修を計画的に進め、年1回の電気設備の点検や、自家発電装置等が正常に作動することの確認など、病院機能の維持に努めています。

さらに当院は、DMAT（災害派遣医療チーム）2チームを有するとともに、日本赤十字社常備救護班（日本赤十字社独自の医療チーム）6班を配置し、有事に備え、平時から研修や訓練を実施し、救護活動に必要な技術の習得と迅速な機動力の向上に努めています。



ほっこり
SDGs

職員の育てた花が病院の彩りに

「少しでも緊張を和らげたい」「患者さまに癒しの空間と時間を…」と当院の看護師長2名、看護係長1名が、病院正面玄関のプランターにお花を植えています。今月のお花はパンジーです。寄せ植えにはワイルドストロベリーが実をつけ、まるで絵本の世界のように。来院される方や職員の心を和ませる存在となっています。忙しい医療現場のほっこりする一面です。



水戸赤十字病院登録医紹介

当院の基本方針である「地域に愛され、信頼される病院」「安全かつ良質な医療の提供」を推進するための心強いパートナーとなる登録医の先生をご紹介します。

誠順会クリニック健康の杜

私共は、患者さまとご家族本位の医療、患者さま方にとって満足のいく医療を提供するサービスとスペースを確立していくことを目指しております。

また、患者さまとご家族の理解と同意を前提とし、生命の質を高められる医療、間違いのない確実な医療を常に心がけ、私共スタッフは、皆さま方と共に歩める医療に責任を持って取り組んでおります。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30~12:30	●	●	休	●	●	●	休
14:30~17:30	●	●	休	●	●	●	休

※外来は予約優先制、精密検査は原則予約制となります。

当院は内科・外科を中心とした総合診療と共に、専門特化した診療科がございます。施設をはじめ、各種医療機器の近代化と充実を図るとともに、各医療機関との緊密な連携を進め、患者さまや地域の皆さまに安心・信頼される医療機関を目指しております。



院長 細田 弥太郎 先生

住 所：水戸市千波町1250

T E L：029-305-6655

診療科：内科、外科、消化器内科、小児外科、リウマチ科、内視鏡外科、整形外科、大腸肛門外科、形成外科、リハビリテーション科、専門外来（予約制）

HPはこちらから！



大場内科クリニック

当クリニックは腎臓内科・透析療法を中心としたクリニックです。「元気で長生きできる透析」を理念とし、腎臓病の早期から末期まで包括的に診療しています。特に、腎臓病の進行阻止のための診療に全力を尽くしています。末期腎不全になられた患者さまには透析療法を行っております。専門知識と豊富な経験を活かし、腎機能に応じた薬物療法、食事療法および生活指導に重点を置いた治療を行って参ります。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~11:45	●	●	●	●	●	●	休
14:00~16:45	●	●	●	●	●	休	休

※初診の方の予約は承っておりません。当日受付順に診療いたしますので直接ご来院ください。※曜日により対応できない診療科目もございますので、ご不明点がございましたら、TELにてご確認ください。

外来は腎臓内科を主として、循環器内科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、泌尿器科、整形外科、形成外科があり、疾病の垣根を越えて連携しながら診療しております。



院長 小林 正貴 先生

職員一同、一人でも多くの患者さまがより良い人生を歩んで頂けるよう全力でサポートさせて頂く所存です。ご安心してご来院くださいますようお願い申し上げます。

住 所：水戸市酒門町275-3

T E L：029-304-0111

診療科：内科（腎臓、循環器、糖尿病、呼吸器、一般）血液透析、整形外科、形成外科、泌尿器科、リハビリテーション科

HPはこちらから！





受診の際にはマイナ保険証をご利用ください

受診時にマイナ保険証をご利用いただき、必要な情報提供に同意することで、次のようなメリットがあります。

- 特定健診情報や他医療機関の診療情報を当院の医師が閲覧でき、より多くの情報に基づいた適切な診療を受けることが可能となります。
- 高額な医療を受けることになった際、限度額適用認定証がなくても、限度額を超える支払いが免除されます。

詳しい制度については厚労省ホームページをご確認ください。
(こちらのQRコードから閲覧できます。)



※従来の健康保険証も、有効期間内はこれまでと同様にご利用いただけます。
※マイナンバーカードの健康保険証利用には申し込みが必要ですが、病院に設置している顔認証付カードリーダーからもお手続きができます。
※マイナ保険証利用の場合でも、各種医療証(公費負担医療受給者証、乳幼児医療費証、特定疾病療養受領証等)は従来通り窓口でのご提示をお願いします。

「水戸日赤でお産」という選択肢

産婦人科医と経験豊富な助産師たちが、妊婦さんを一丸となってケアします。ハイリスクでないかたも、里帰り分娩のかたも、当院でのお産を歓迎します。

産科の電話予約について

受診希望の妊婦さんからの電話予約を受け付けております。

☎ 029-221-5177(代)

受付時間 9:00~16:30(月~金)

※休診日(土・日・祝日など)を除きます。

「産科外来の予約を希望」とお伝えください。



就任のお知らせ

【令和7年7月1日付】

うしやま しんべい
外科 牛山 心平

上記の医師が就任いたしました。よろしくお願いいたします。

退任のお知らせ

【令和7年5月31日付】

ほりえ まり
産婦人科 堀江 真理

上記の医師が退任いたしました。大変お世話になりました。

【令和7年6月30日付】

かとう こうすけ
皮膚科 加藤 宏典



※プレゼント内容は変更になる場合がございます。

読者アンケート×プレゼント企画!

病院広報誌「虹」をより良くするために、皆さまのお声をお聞かせください。アンケートに回答いただいた方に、**ハートちゃん付箋セット(左写真)をプレゼント**いたします!ぜひご協力をお願いいたします。

1分アンケートにご協力をお願いします!

こちらのQRコードを読み取って回答いただけます。
回答期限は令和7年8月31日までです。



理念と基本方針

理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神のもとに全人的医療の提供に努め、患者の皆さまの権利を尊重します。

基本方針

1. 地域に愛され、信頼される病院として、皆さまとともに歩み続けます
2. 安全かつ良質な医療の提供に努めます
3. 患者の皆さまの権利を尊重します
4. 赤十字の使命に基づき、救急医療及び災害救護の充実に努めます
5. 健全な経営に努め、働きやすく活気あふれる職場づくりに取り組みます



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

水戸赤十字病院

〒310-0011 水戸市三の丸3丁目12番48号

TEL: 029-221-5177(代表)

FAX: 029-227-0819(代表)

編集: 水戸赤十字病院広報委員会

発行責任者: 事務部長 大高 幹夫

◆診療受付 初診/8:30~11:00

再診/7:30~11:00

◆診療開始 8:30 ※診療科、曜日によって例外があります。ご注意ください。

◆休診日 土・日曜日、祝日及びその振替休日、日本赤十字社創立記念日(5月1日)、年末年始(12月29日~1月3日)

院長コラム

Long Way To Go ～まだまだ先は長い～

我が国の人口動態を見ると、現役世代(生産年齢人口)の減少が続く中、いわゆる団塊の世代が2022年から75歳(後期高齢者)となり、その後も、2040年頃まで、65歳以上の人口増加が続きます。2040年には就業者数が大きく減少する中で、医療・福祉職種の人材は現在より多く必要となるといわれています。

このような人口構造の変化に対応し医療のアクセスや質を確保しつつ、持続可能な医療提供体制を確保していくため、各二次医療圏ごとに「地域医療構想調整会議」が設置され検討が進められています。

水戸赤十字病院が位置する水戸医療圏の課題は、まず、急性期病床の過剰(1,300床超)と回復期病床の不足(800床超)です。次に、当院を含め同規模クラスの公立・公的病院が林立していることです。また、県内唯一の医師輩出大学である筑波大学は、医師不足解消や働き方改革促進のため派遣先の集約を必要としているように思います。

先日、茨城県は、県立中央病院と県立こども病院の統合を発表しました。今後10年以内に水戸市と笠間市にまたがる地域に新病院を整備するとのことでした。

当院を含め残された病院は、病院間の連携と機能集約を図り、統合も視野に入れた効率的な医療提供体制を構築していく必要があります。

当院の診療能力は、「なんでも診られる」わけではありませんが、周産期からがん診療まで、ある程度幅広く対応でき、地域包括病棟等もあります。現在は薬の進歩が目覚ましく、例えばがん診療では、難しい手術よりも、通院治療の重要性が高まると思います。そのような外来患者の増加は、高度急性期病院には負担が大きいのでしょう。かといって、診療所やクリニックでは、高度な抗がん剤治療や、がん患者の急変対応は難しいと思います。生まれたときから、人生の最期まで完結する病院が貴重になってくるはずで、これこそが当院の未来になるのではと考えています。

水戸赤十字病院 院長 野澤 英雄



水戸赤十字病院創立100周年特別記念座談会の記事広告が 第32回茨城新聞広告賞 優秀賞を受賞!



令和6年6月14日付の茨城新聞に掲載された、当院の野澤 院長、高橋 靖 水戸市長、そして富田 敬子 前常磐大学・短期大学学長の3名による特別座談会の記事広告が、第32回茨城新聞広告賞において優秀広告賞を受賞しました。

受賞について、大変光栄に思いますとともに、座談会の聞き手を務められた茨城新聞社の沼田社長をはじめ、制作に携わっていただいたすべての皆さまと読者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

今回の受賞を励みに、今後もより一層、皆さまに愛され信頼される病院を目指して精進してまいります。



特別記念座談会の記事広告は
こちらのQRコードから閲覧いただけます。



▲実際の掲載記事(一部)と対談の様子。